

琉球大学学術リポジトリ

化粧の取扱い方

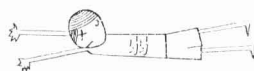
メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡口, 文子, Toguchi. Fumiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20623

オ ー ロ ン
 エ ク ス ラ ン
 テ ト ロ ン
 サ ラ ン
 カ ネ カ ロ ン

絹

ナ イ ロ ン
 (塩酸にやや弱)

ビスコースレーヨン
 ベ ン ペ ル グ
 木 綿



オ ー ロ ン
 カ ネ カ ロ ン
 エ ク ス ラ ン
 テ ト ロ ン

ビスコースレーヨン
 ベ ン ペ ル グ
 ア セ テ ー ト
 サ ラ ン

羊 毛
 絹

(村田治子)

化繊の取扱い方

買い方、縫製、管理面について申し上げます。

買 い 方: 履歴のはっきりした一流メーカー製品を耳マーク、反未マークの記載されたもの。信用ある店で店員にたしかめて買物されるのが安全です。

縫製（仕立てるとき）と漂白

地直しは軽く空アイロンを当て、整え、耳づれは斜めに鉄を入れて直します。付属品は同一繊維のもの、他の繊維の場合は十分に収縮させて使用します。

裁 断: バイヤスに使った方が美しく仕上がります。経緯の場合は縫方に注意しないとづれて美しく上りません。縫代は多目に取ります。

本 縫: 糸は同一繊維のもの、生地は厚くても細いもの、針は針先の鋭いものがよい。ミシン針は9番～11番針目は100%化繊のときは1糎に5針前後、交織物は薄地で3～7目、厚地物は7～8目にします。

ミシンの調子は縫製上大切なことで、上糸下糸はそれぞれ普通より弛めます。糸巻きも小さいものがよい(高さ3.5糎以下) 薄地の場合は押え金の圧力を少くし、送り金の高さもやや低く(0.5糎以下)に加減します。経

緯の裁目の時は敷縫を用いますと美しく縫えます。縫代の始末はほつれを防ぎ、美しく見えるものを用います。例えば袋縫、折伏縫、縫目かがりなど洗濯は、中性石けんできみ洗いやブラシ洗いし、しばらく水を切っかけて干します。洗濯機を使用する時、100%化繊はネットに入れて普通の半分時間かけますが、脱水機にかけると小じわがつきとれない場合がありますので注意します。

漂 白: ナイロン以外のものは次亜塩素酸ソーダを用います。30～60で処理します。ナイロンには亜塩素酸ソーダとヒドロサルファイトで処理します。又蛍光染料を使用します。

しみ抜きに使ってはいけない薬品はアセテートにはアセトン、ナイロンには晒粉、過酸化水素、クレゾールなど、ビニロンにはクレゾールやフォルマリンなどです。しみは着いたらすぐおとすことです。ぬるま湯に石けんを溶かしたもので洗います。油類はベンジンで拭き後石けん液で拭きます。

最後に混紡交織の扱いは原則として100%化繊の織物と同様に扱いますが、管理面では混ぜられた繊維の扱い方をしなくてはなりません。(渡 口 文 子)